

京阪電鉄 16号 形式図

1928年に汽車会社が製造した貴賓車

当時の京阪はまだパンタグラフを採用していなかったので、このようなポール集電の16m級貴賓車が生まれた
その頃の京阪の代表車であった600形と同系であるが、大きな窓や半月形の飾り窓など優雅な外観をしており、
独特の味を持っている

室内は図の右から、給仕室、ホール、貴賓室、洗面所、WC、随員室の順に分かれる

軸数は1輦のみ

図はもちろん当初を示した

1939年一般用に格下げされたが、窓周りなど往時の面影を多分に残しながら、ロングシートのトレーラーとして
活躍を続けてきた

